

Title	大学生のエイズに関する知識と意識の実態
Author(s)	鈴木, 明
Citation	聖学院大学論叢, 10(2) : 115-130
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=613
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

大学生のエイズに関する知識と意識の実態

鈴木 明

University Students' Knowledge and Awareness of AIDS

Akira SUZUKI

The purpose of this paper is to gain insight into the awareness and understanding of AIDS among current university and junior college students, and to consider what the content of AIDS education should be in the future. Recently, many people have learned about AIDS through special education. However, not all students have a correct understanding of AIDS. There have been many questions and concerns within the field of AIDS education. AIDS education at the lower levels, particularly high school and below, is not very effective.

Procedures for protection against AIDS including "safe sex" need to be promoted in the universities and junior colleges as soon as possible. Prejudice against AIDS patients continues; therefore, students need to learn about AIDS in a neutral school setting where they can receive accurate information. Moreover, recently drugs are beginning to be used by young people. The number of university students using drugs is small, but the problem does exist. Information about the damage that these substances do to one's body and the connection between drug use and AIDS needs to be communicated to students.

I. はじめに

近年、エイズが世界的流行病となって大きな社会問題になっているのは周知の事実である。最初のエイズ患者が発見されたのは1981年6月、アメリカの男性同性愛者においてであり、1983年、フランスのモンタニエらによって病原ウイルス（HIV）が発見された。エイズウイルスに感染した成人は1994年6月の段階で1,600万人（子供も100万人以上）に達し、世界の成人人口の0.5%、180人に1人が感染していることになる⁽¹⁾。さらに実際には感染していても気づいていない者が7～8倍

Key words; HIV/AIDS, University and College Students, Knowledge and Awareness, AIDS Education

にも達するといわれている。わが国では、男性同性愛者の最初のエイズ患者が1985年3月に確認されてから、着実に増加傾向がみられ、1995年12月末現在、エイズ患者1,154名、HIV感染者3,524名の報告がある。この中で、血液凝固因子剤による感染を除いた数は2,290名である⁽¹⁾⁽²⁾。

海外におけるエイズの感染爆発は、ボーダレス時代の現代では、技術的にも事実上、水際で食い止めることは不可能である。したがって、エイズの予防には、人々の知識の向上や安全な性行為の定着などの予防策を徹底する他に手はない。

本研究は、大学生・短期大学生の現状におけるエイズに関する意識、知識を把握することから、今後のエイズ予防教育の内容を検討することを目的に調査、検討を試みた。その結果、若干の知見を得たので報告する。

Ⅱ. 調査の概要

調査対象は、埼玉県にある私立大学2校と短期大学1校で、対象人数は446名（男子153名、女子293名）である（表1）。

調査は1996年5月22日から6月1日の間に無記名の質問紙法で行った。授業中に質問紙票を配布し、封筒に入れ、密封後に回収箱で回収した。

調査の内容は、これまで行われてきたエイズの意識調査や知識調査、出版物などを参考に作成した^{(3)~(12)}。差の検定には χ^2 （カイ二乗）検定を用い、主に性差について比較検討した。

表1 対象人数 (人)

	全体	1年	短1	2年	短2	3年	4年
男性	153	36	0	81	0	31	5
女性	293	37	195	44	1	13	3
合計	446	71	197	125	1	44	8

Ⅲ. 調査結果

1) エイズ教育の有無

エイズに関する教育の有無は、表2、3に示した。

エイズ教育は、「高校でのみ受けた」者が38.6%、「中学・高校の両方で受けた」者が37.0%いる。したがって高校では75%の者がエイズ教育を受けていたことになる。高校まででエイズ教育を受けていないのは17.0%である。また学校のエイズ教育は「保健の教科」の教師から受けている者が多

大学生のエイズに関する知識と意識の実態

い(表4)。その教育形態は、先生による話と参考書、ビデオやスライドを使用するケースが多い(表5)。

エイズ教育を受けた感想は、「エイズに対して関心が高まった」と回答する者が半数近くを占め、エイズに対する啓蒙効果がみられる(表6)。

表2 中学・高校でのエイズ教育の有無 (%)

P:***	全体	男子	女子
中学でのみ受けた	5.4	3.3	6.5
高校でのみ受けた	38.6	38.6	38.6
中学・高校の両方で受けた	37.0	28.1	41.6
受けていない	17.0	27.5	11.6
その他	2.0	2.6	1.7

(*:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001)

表3 大学・短大でのエイズ教育 (%)

P:***	全体	男子	女子
受けた	21.8	38.7	13.1
受けない	69.6	44.7	82.5
覚えていない	8.6	16.7	4.5

表4 エイズ教育の実践者(複数回答) (%)

P:**	全体	男子	女子
担任の先生	22.4	25.2	21.1
保健の教科の先生	82.9	77.9	85.3
保健室の先生(養護教諭)	17.1	15.3	18.0
保健以外の教科で	10.3	5.3	12.8
外部の専門の先生	7.6	9.2	6.8
その他	5.0	9.2	3.0
n	397	131	266

表5 教育形態 (%)

P:**	全体	男子	女子
先生の話のみ	21.3	28.2	17.9
先生の話と本	31.0	19.1	36.9
先生の話とビデオ・スライド	27.4	32.1	25.1
先生の話と本とビデオ・スライド	16.2	13.7	17.5
その他	4.1	6.9	2.6
n	394	131	263

表6 エイズ教育を受けた感想 (%)

P:NS	全体	男子	女子
エイズがそれほど恐ろしくなくなった	11.7	12.6	11.3
前よりエイズが恐ろしくなった	22.9	19.3	24.8
エイズに対して関心が高まった	51.7	53.3	50.8
性に対する知識を得た	9.2	10.4	8.6
不潔な感じがした	1.3	0.7	1.5
その他	3.2	3.7	3.0
n	401	135	266

2) エイズに対する意識

「エイズに対して関心があるか」という質問に、「非常にある」、「少しある」と回答した者は、男子で77.8%，女子で74.4%である（表7）。関心をもっている者が多いが、とくに男子に「非常にある」と回答する者が多く、性差がみられた。またエイズという病気には「とても恐ろしい病気である」というイメージをもっている者が9割近くを占めている（表8）。

エイズの情報源は「テレビ・ラジオ」がもっとも多いが、次いで男子は「週刊誌などの雑誌」、「新聞」が多いが、女子は「学校の先生」が多く、性差がみられる（表9）。

エイズにかかる可能性は、「たぶんかからないと思う」、「状況によってかかるかもしれない」と考えている者が多い（表10）。またエイズの血液検査を受けるか否かについては、「どちらでもよい」という者が半数近くおり、「あまり受けたいとは思わない」者も3割みられる（表11）。受けたくない理由は、男子は「万一かかっていると診断されたいやだから」、女子は「かかるようなことはしていない」と答える者が多い（表12）。また「すでに受けたことがある」学生は、女子で3名（女子の1.0%）であった。

「エイズ検査の結果、罹っているといわれたらどうするか」という問いに対しては、男女とも「とても不安な気持ちになる」という者が多いが、次いで男子は「しかたないとあきらめる」、女子は「死にたい気持ちになる」という者が多く、性差が見られる（表13）。また「罹っている」といわれた時、その結果は男女とも「家族や友人に知らせる」者が多く、「誰にも知らせない」という者は12.4%である（表14）。その際男子は、「今までどおり他人に接する」者が多く、女子は「すぐ入院し治療を受けたい」という者が多いが、性差はない（表15）。「家族や友人に感染者がいる場合」の態度は、男女とも「今までと同様に接する」と答える者が半数以上を占めるが（表16）、女子は「治療を受けさせる」という者が多く性差がみられる。

予防ワクチンができれば、男子は「ぜひ接種を希望する」、女子は「適当な時期に接種しておきたい」と答える者が多く、性差がみられる（表17）。また、「エイズワクチンができたとき受けるべき人」としては、「国民全員が受けるべき」という者が男女とも7割近くを占める（表18）。

「今後のエイズ患者の増加」については、「急激に増えると思う者」が男女とも半数近くおり、「少しは増えると思う」者を含めると、ほぼ90%の者が増加すると考えている（表19）。これまでの他の報告に比べて、「増加する」と思っている者が多くなっている。

エイズ患者のプライバシーについては、「守られることはむづかしいと思う」という者が52.5%と半数近くを占め、「守られる」と思っている者は、26.7%である（表20）。また「エイズに関してもっとも関心のあることは」という問いに対しては、「治療法」や「正確な情報」をあげる者が多い（表21）。さらにエイズの報道については、「積極的に報道すべきである」と回答する者が49.7%みられる（表22）。

「あなたが感染者で妊娠した（させた）とき、その子供をどうしますか」という問いには、「その

大学生のエイズに関する知識と意識の実態

時でないといけない」という者が多いが、「産まない（産ませない）」者が36.9%で、「産む（産ませる）」という者は10.3%である（表23）。

エイズに関する教育については、「機会があれば受けたい」者が多いが、男子に「受けなくていい」という者が多く性差がみられる（表24）。表2で中学・高校で、エイズ教育を受けた者は全体

表7 エイズについての関心 (%)

p : *	全体	男子	女子
非常にある	18.2	25.5	14.3
少しある	57.4	52.3	60.1
あまりない	22.2	19.0	23.9

表8 エイズという病気 (%)

p : NS	全体	男子	女子
とても恐ろしい病気	87.7	85.0	89.1
何となく恐ろしい病気	10.5	11.8	9.9
何も感じない	1.8	3.2	1.0

表9 エイズの知識の情報源（複数回答） (%)

p : **	全体	男子	女子
テレビ・ラジオ	86.9	84.2	88.4
週刊誌などの雑誌	36.7	46.7	31.5
単行本	8.3	8.6	8.2
学校の先生	47.7	30.9	56.5
新聞	34.2	38.8	31.8
病院・保健所およびそのポスター	23.4	21.7	24.3
行政の広報	7.4	10.5	5.8
友人・知人	12.2	15.1	10.6
その他	1.8	2.0	1.7
とくに得ていない	1.1	2.0	0.7

表10 エイズウイルスにかかる可能性 (%)

p : NS	全体	男子	女子
絶対にかからないと思う	13.7	10.5	15.4
たぶんかからないと思う	45.5	45.1	45.7
状況によってかかるかもしれない	40.4	43.8	38.6
やがてかかってしまうだろう	0.4	0.7	0.3

表11 エイズについての血液検査 (%)

p : NS	全体	男子	女子
ぜひ受けたい	15.1	18.4	13.4
どちらでもよい	49.7	50.7	49.1
あまり受けたいとは思わない	31.2	28.3	32.6
絶対に受けたくない	3.4	2.6	3.8
すでに受けたことがある	0.7	0	1.0

表12 受けない(受けたくない)理由 (%)

p : **	全体	男子	女子
万一かかっていると診断されたいやだから	15.4	20.0	13.3
かかるようなことはしていないから必要ない	66.3	49.1	74.2
その他	18.3	30.9	12.5
n	175	55	120

表13 かかっているといわれたら (%)

p : ***	全体	男子	女子
特に何とも思わない	3.0	3.4	2.8
とても不安な気持ちになる	57.0	54.7	58.2
しかたないとあきらめる	18.0	29.1	12.3
死にたい気持ちになる	21.9	12.8	26.7

大学生のエイズに関する知識と意識の実態

で81%であるが、教育を受けたい者は87.9%であり、エイズ教育の希望に対してもう少し答える必要がある。しかし、男子は女子に比べ、エイズに「関心はある」ものの、もし罹れば「しかたないとあきらめる」し、教育についても「受けなくてもいい」と考えている者が多い。

「あなたのまわりにエイズの感染者はいると思いますか」という問いには、男子は女子に比べ、「いると思う」者が2倍以上多く、性差がみられる（表25）。

表14 罹っているといわれた時、誰に結果を知らせるか (%)

P : NS	全体	男子	女子
家族にのみ	49.0	42.3	52.4
親しい友人にのみ	4.4	6.7	3.1
家族・友人の両方	29.7	32.9	28.0
誰にも知らせない	12.4	12.1	12.6
その他	4.6	6.0	3.8

表15 かかっているといわれた時の態度 (%)

P : NS	全体	男子	女子
今までどおり他人に接する	24.4	29.5	21.7
なるべく他人に接しない	11.3	12.1	10.8
すぐ入院し治療を受けたい	31.0	27.5	32.9
経過をみてから治療を受ける	27.4	22.8	29.7
その他	6.0	8.1	4.9

表16 家族や友人に感染者がいたら? (%)

P : *	全体	男子	女子
今までと同様に接する	55.7	57.9	54.6
なるべくその人に接しない	6.5	8.6	5.5
すぐ入院し治療を受けさせる	17.1	11.2	20.1
経過をみて治療を受けさせる	15.1	13.2	16.0
その他	5.6	9.2	3.8

表17 予防ワクチンができたら (%)

P : *	全体	男子	女子
ぜひ接種を希望する	56.5	65.1	52.1
適当な時期に接種しておきたい	34.9	29.6	37.7
自分に関係ないので受けない	5.4	2.6	6.8
その他	3.2	2.6	3.4

表18 エイズワクチンができた時受けるべき人 (%)

P : NS	全体	男子	女子
感染者が周囲にいる人たち	4.0	3.3	4.5
国民全員が受けるべき	68.5	69.9	67.8
風俗営業に関わっている人たち	2.7	3.9	2.1
希望者だけ受ければよい	21.1	19.6	21.9
医療に関わっている人たち	0.7	1.3	0.3
同性愛者、薬物中毒者たち	2.2	1.3	2.7
その他	0.7	0.7	0.7

表19 今後のエイズ患者の増加について (%)

P : NS	全体	男子	女子
急激に増えると思う	51.7	47.7	53.8
少しは増えると思う	39.8	42.5	38.4
増えるとは思わない	1.3	2.0	1.0
よくわからない	7.2	7.8	6.8

大学生のエイズに関する知識と意識の実態

表20 エイズ感染者のプライバシー (%)

P : NS	全体	男子	女子
守られると思う	26.7	26.8	26.6
守られることはむづかしいと思う	52.5	48.4	54.6
守られずに必ず漏れる	7.8	12.4	5.5
よくわからない	13.0	12.4	13.3

表21 エイズに関してもっとも関心のあること (%)

P : NS	全体	男子	女子
エイズの治療法について	32.7	31.4	33.3
エイズ予防の日常の注意	17.3	15.7	18.2
エイズについての正確な情報	29.3	25.5	31.3
エイズの研究の進みぐあい	18.9	24.2	16.2
その他	1.8	3.3	1.0

表22 エイズの報道 (%)

P : NS	全体	男子	女子
積極的に報道すべきである	49.7	48.3	50.3
現状程度の報道でよい	29.6	29.8	29.5
部分的に誇張されすぎている	20.8	21.9	20.2

表23 「あなたが感染者で妊娠した(させた)ときその子供をどうしますか」 (%)

P : NS	全体	男子	女子
産む(産ませる)	10.3	9.8	10.6
産まない(産ませない)	36.9	35.9	37.3
その時でないとわからない	52.8	54.2	52.1

表24 エイズに関する教育 (%)

P : *	全体	男子	女子
是非受けたい	20.9	22.4	20.1
機会があれば受けたい	67.0	59.9	70.6
受けなくていい	9.4	15.1	6.5
その他	2.7	2.6	2.7

表25 まわりにエイズの感染者はいると思うか (%)

P : ***	全体	男子	女子
いると思う	15.6	24.0	11.3
いないと思う	84.4	76.0	88.7

3) 大学生の性行動と意識、薬物の使用

「あなたは性行動の前提条件として何をもっとも重要視しますか」という質問には、「愛情」をあげる者が男女とも多いが、次いで男子は「その時のムード」、女子は「結婚」をあげており、性差が認められる(表26)。また大学生の交際の限度は男女とも「性交」とする者が多いが、反面、女子には「キスまで」という者も12.1%みられ、性差が認められる(表27)。

性交の経験は、「経験がある」者は男子54.2%、女子28.8%と男子が多く性差がみられるが、調査対象者の学年も影響していると考えられる(表28)。

「性交時のコンドームの使用」については性差があり、男子は「必ず最初から使用する」と答えた者が41.5%であるが、女子は25.0%と少ない(表29)。また「不特定多数の相手との性交渉」は男子13.8%、女子5.6%と性差がみられる(表30)。

風俗産業の利用経験は、男子が5.3%、女子は0.7%みられる(表31)。

大学生のエイズに関する知識と意識の実態

薬物の使用の有無は、男子の4.9%、女子の1.8%があると答えている（表32）。周りの友人の薬物使用については、男子の13.3%、女子の7.0%の者が「使用している者がいる」と答えている（表33）。使用した薬物の種類は、マリファナ、コカイン、シンナーなどをあげている。

表26 性行動の前提条件で重視する点 (%)

P : ***	全体	男子	女子
結婚	11.5	4.6	15.0
婚約	3.4	5.3	2.4
愛情	64.7	55.3	69.6
その時のムード	15.1	28.9	7.8
その他	5.4	5.9	5.1

表27 大学生の交際の限度 (%)

P : **	全体	男子	女子
キスまで	9.3	3.9	12.1
ライトペッティングまで	6.6	5.3	7.3
ヘビーペッティングまで	2.9	0.7	4.2
性交まで	64.4	73.0	59.9
その他	16.8	17.1	16.6

表28 性交の経験 (%)

P : ***	全体	男子	女子
ある	37.5	54.2	28.8
ない	47.9	29.4	57.5
回答拒否	13.0	13.7	12.7
その他	1.6	2.6	1.0

表29 性交時のコンドームの使用 (%)

P : ***	全体	男子	女子
必ず最初から使用する	32.6(84)	41.5(49)	25.0(35)
射精時に使用する	12.4(32)	10.2(12)	14.3(20)
時々使用する	19.0(49)	18.6(22)	19.3(27)
使用しない	7.8(20)	9.3(11)	6.4(9)
回答拒否	18.6(48)	13.6(16)	22.9(32)
その他	9.7(25)	6.8(8)	12.1(17)
n	258	118	140

表30 不特定多数の人と性交渉 (%)

P : ***	全体	男子	女子
ある	8.4(37)	13.8(21)	5.6(16)
ない	80.2(353)	70.4(107)	85.4(246)
回答拒否	11.4(50)	15.8(24)	9.0(26)

表31 風俗産業の利用経験 (%)

P : **	全体	男子	女子
ある	2.3	5.3	0.7
ない	97.7	94.7	99.3

表32 薬物使用の有無 (%)

P : NS	全体	男子	女子
ある	2.9	4.9	1.8
ない	97.1	95.1	98.2

表33 周囲の薬物使用の有無 (%)

P : *	全体	男子	女子
ある	9.2	13.3	7.0
ない	90.8	86.7	93.0

大学生のエイズに関する知識と意識の実態

4) エイズに関する知識

エイズに関する知識をたずねた結果は表34に示した。

回答は質問に対して、「はい」、「いいえ」、「わからない」の3択である。

質問の内容は、エイズウイルスについて、性交時の感染などについてである。

比較的正確率が高かった項目は、「血液製剤を使用してエイズウイルスに感染した血友病の人もいる」(正)が88.1%、「コンドームを使うことでエイズウイルスに感染する危険性は低くなる」(正)87.7%、「エイズウイルスに感染した人と軽いキスをするだけでエイズに感染する」(誤)が92.2%、「エイズウイルスの感染者の注射針からも感染することがある」(正)89.2%、「エイズの病原体はHIVと呼ばれるウイルスである」(正)85.2%などである。血液製剤やHIVという言葉については、最近のマスコミの報道が盛んに行われているので、理解していると考えられる。これに対して誤答が多かったのは、「エイズは遺伝する病気のひとつである」(誤)が32.4%、「エイズは指定伝染病のひとつである」(誤)が24.3%、「エイズウイルスに感染したひとは5年以内に3割以上が発病する」(誤)が24.9%、「妊婦がエイズウイルスに感染するとお腹の赤ちゃんも5割以上感染する」(誤)は非常に低く10.5%である。その他、「現在の日本では献血の採血時や輸血でエイズウイルスに感染することはない」(正)31.5%、「感染者と性行為をして一週間たって検査をすれば、感染したかどうかわかる」(誤)35.0%などである。総じて、知識に関してはあまりあるとはいえない。とくに感染経路についての誤った知識も多く、この点が今後の教育内容として検討しなければならない課題となる。

男女別にみると、男子の方の正確率が上回っている項目は、「エイズは指定伝染病のひとつである」、「妊婦がエイズウイルスに感染するとお腹の赤ちゃんも5割以上感染する」、「エイズウイルスの感染者はいろいろな感染症にかかりやすい」、「出血しやすい肛門性交は陰性交よりも感染しやすい」の4項目、女子の正確率が高いのは、「エイズウイルスに感染したひとは5年以内に3割以上が発病する」、「エイズは男性→女性より、女性→男性の方が感染しやすい」、「エイズの病原体はHIVと呼ばれるウイルスである」の3項目である。但し、「エイズウイルスに感染した人は5年以内に3割以上が発病する」という項目に関しては、正確率には差はないが、誤答が男子49.3%、女子37.9%、「わからない」と回答する者が、男子で27.0%、女子で36.5%であった。

また、エイズ教育の有無で、知識の正確率を比較したものが表35である。表には有意な差があるもののみ示してある。ここでのエイズ教育を受けた者とは、高校もしくは中学・高校の両方で受けた者とし、中学のみで受けた者は除いてある。全体で4項目に差がみられたが、正確率はむしろ、エイズ教育を受けていない方が高かった。但し「妊婦がエイズウイルスに感染するとお腹の赤ちゃんも5割以上感染する」という問いには、正確率には差はないが、誤答は、教育ありが74.5%、なしが55.9%、「わからない」と回答する者は、教育ありが17.0%、なしが38.2%である。同様に、「エイズは男性→女性より、女性→男性の方が感染しやすい」という項目でも、誤答は、教育あり

大学生のエイズに関する知識と意識の実態

表34 エイズに関する知識 (正解率)

(%)

項 目	正解	全体	男子	女子	p
エイズは「ヒト免疫不全ウイルス」の頭文字をとって付けたものである	×	52.3	49.0	54.0	NS
エイズは遺伝する病気のひとつである	×	32.4	34.0	31.5	NS
エイズは指定伝染病のひとつである	×	24.3	28.8	21.9	*
血液製剤を使用してエイズウイルスに感染した血友病の人もいる	○	88.1	87.6	88.4	NS
エイズウイルスに感染したひとは5年以内に3割以上が発病する	×	24.9	23.7	25.6	*
妊婦がエイズウイルスに感染するとお腹の赤ちゃんも5割以上感染する	×	10.5	15.7	7.8	*
コンドームを使うことでエイズウイルスに感染する危険性は低くなる	○	87.7	89.5	86.7	NS
エイズウイルスに感染してから、発病するまでの間(無症候性キャリア)は、他人に感染しない	×	59.1	65.1	56.0	NS
エイズは男性→女性より、女性→男性の方が感染しやすい	×	43.3	34.6	47.8	***
エイズウイルスの感染者はいろいろな感染症にかかりやすい	○	57.0	65.4	52.6	*
エイズウイルスに感染した人と軽いキスをするだけでエイズに感染する	×	92.2	90.8	92.8	NS
エイズの患者、感染者と風呂やトイレを共有するとエイズに感染することがある	×	83.4	83.7	83.3	NS
避妊用ピルを使えばエイズに感染する危険が少なくなる	×	52.5	60.1	48.5	NS
エイズウイルスは咳やくしゃみでも感染することがある	×	80.2	75.7	82.5	NS
出血しやすい肛門性交は膣性交よりも感染しやすい	○	58.3	66.0	54.3	***
エイズ感染者を刺した蚊にさされたら感染する	×	58.7	65.4	55.3	NS
エイズウイルスの感染者の注射針からも感染することがある	○	89.2	88.9	89.4	NS
現在の日本では献血の採血時や輸血でエイズウイルスに感染することはない	○	31.5	35.3	29.5	NS
エイズの病原体はHIVと呼ばれるウイルスである	○	85.2	77.0	89.4	***
感染者と性行為をして一週間たって検査をすれば、感染したかどうか分かる	×	35.0	37.3	33.8	NS

に23.5%，なしが40.5%，「わからない」と回答する者は，教育ありが43.1%，なしが21.4%である。

性体験の有無別での知識の正解率の比較においては，10項目に差がある。質問項目によってばらつきはあるが，性体験がある者の方でも，とくに男子の正解率がいい。とくに，エイズの感染方法の知識に差があるが，「エイズウイルスに感染してから，発病するまでの間（無症候性キャリア）

大学生のエイズに関する知識と意識の実態

表35 エイズに関する知識（正解率）

教育の有無（表5〔高校のみと中学・高校の両方で受けた群と受けていない群の比較〕：有意差があるもののみ）

(%)

項 目	性別	全体	ある	ない	P
エイズは指定伝染病のひとつである	男子	28.8	21.6	45.2	*
妊婦がエイズウイルスに感染するとお腹の赤ちゃんも5割以上感染する	女子	7.8	8.5	5.9	*
エイズは男性→女性より、女性→男性の方が感染しやすい	男子	34.6	33.3	38.1	*
感染者と性行為をして一週間たって検査をすれば、感染したかどうかわかる	男子	37.3	33.3	54.8	*

性体験の有無での比較：有意差があるもののみ

(%)

項 目	性別	全体	ある	ない	P
エイズは指定伝染病のひとつである	女子	21.9	14.3	22.8	*
エイズウイルスに感染したひとは5年以内に3割以上が発病する ^{*1}	男子	23.7	25.3	20.5	*
妊婦がエイズウイルスに感染するとお腹の赤ちゃんも5割以上感染する	男子	15.7	21.7	6.7	**
エイズウイルスに感染してから、発病するまでの間（無症候性キャリア）は、他人に感染しない	男子	65.1	75.9	50.0	**
エイズは男性→女性より、女性→男性の方が感染しやすい	男子	34.6	39.8	24.4	*
エイズウイルスの感染者はいろいろな感染症にかかりやすい	男子	65.4	66.3	66.7	*
避妊用ピルを使えばエイズに感染する危険が少なくなる	男子	60.1	71.1	40.0	**
出血しやすい肛門性交は膣性交よりも感染しやすい	男子	66.0	75.9	53.3	*
出血しやすい肛門性交は膣性交よりも感染しやすい	女子	54.3	66.7	47.0	*
エイズ感染者を刺した蚊にさされたら感染する	男子	65.4	65.1	64.4	**
感染者と性行為をして一週間たって検査をすれば、感染したかどうかわかる	男子	37.3	49.4	22.2	**

注) *1は誤答の差に有意差がみられたもの

は他人に感染しない」、「エイズは男性→女性より、女性→男性の方が感染しやすい」、「避妊用ピルを使えばエイズに感染する危険が少なくなる」、「感染者と性行為をして一週間たって検査をすれば、感染したかどうかわかる」に顕著である。また「出血しやすい肛門性交は膣性交よりも感染しやすい」という問いには男女とも経験ありの正解率が高い。性体験のある者は、それだけエイズについて関心があると考えられる。

IV. 考 察

エイズに関する教育は、高校までに多くの者が受けているが、それは主に、学校での保健の授業中に行われているケースが多い。大学でのエイズ教育は、受けている者が少ないが、これは今回の調査で、対象者に1年生が多いこと、調査対象校が3校と少ないこと、調査の時期が5月から6月にかけて行ったことが影響していると考えられる。また性差がみられたが、女子の方の出身高校が偏っていることや、調査した学校が少ないからと考えられる。

エイズ教育を受けた感想は、「エイズに対して関心が高まった」と回答する者が半数近くを占め、エイズに対する啓蒙効果がみられるが、実際には知識として浸透していない。

エイズの情報源は男女ともテレビ・ラジオが一番多かったが、男子は次いで、週刊誌などの雑誌が多く、女子は学校の先生が多いが、雑誌などには興味本位のものもあり、正しい知識として伝達していないのではないかと考えられる。

エイズには関心があり、その情報源はテレビやラジオなどのメディアが多い。また、エイズは自分とはあまり縁のない病気で、たぶん罹らないと考えている者が6割いるが、4割は状況によっては罹る可能性もあると答えている。エイズの情報源や関心から考えられることは、マス・メディアによる情報は一過性であることが多く、知識の偏りや感染者への偏見がある場合も考えられるので、エイズの知識に関しては、学校の教育の中でしっかりと実施することが必要であるといえる。

エイズの血液検査に関しては、男女とも同じ程度の希望であるが、受けない（受けたくない）理由は、男子は「万一かかっているといやだから」ということに対して、女子は「かかるようなことはしていないから必要ない」という者が多い。またエイズ患者のプライバシーを守ることはむづかしいと考えている者が多いことから、他人に見つかる恐怖からも、検査を受けたくないという者が多いと考えられる。

もし罹っている場合も男子は「しかたがない」という『あきらめ』型が多いが、女子は「死にたい気持ちになる」者が多く、深刻さは女子の方が大きいといえる。また本人が罹った場合や周りで罹った人がいる場合は、男子に比べ女子は治療をする（すすめる）者が多い。エイズワクチンに関しては「国民全員が受けるべき」と考えている者が多いが、エイズは今後も増え続けると思っている者が多いことを合わせて考えると、それだけエイズに対して真剣に考えているのか、エイズに対して何となく恐ろしいイメージを持っているといえる。

性行動に関しては、性行動の前提条件などの考えから、男子の方にエイズに罹る危険性が高いことが示唆されたが、男女とも大学生の場合は性交までよいという者が多いことから、より安全な性交についての教育が必要である。

V. 結 論

大学生・短期大学生の現状におけるエイズに関する意識、知識を把握して、今後のエイズ予防教育の内容を検討することを目的に調査、検討を試みた結果、以下のことが判明した。

- 1) エイズ教育を受けた感想は、「エイズに対して関心が高まった」と回答する者が半数近くを占め、エイズに対する啓蒙効果がみられるが、実際には知識として浸透していない。
- 2) エイズには関心があり、その情報源はテレビやラジオ、雑誌などのメディアが多いが、知識としては雑誌などには興味本位のものもあり、正しい知識として伝達していないと考えられる。
- 3) エイズは自分とはあまり縁のない病気で、たぶん罹らないと考えている者が6割いるが、4割は状況によっては罹る可能性もあると答えている。
- 4) エイズに対しては、周りに知られたくないという意識が強く、検査も他人に見つかる恐怖から受けたくないという者が多いが、この傾向はとくに男子学生に多く見られる。
- 5) エイズに対して何となく恐ろしいイメージを持っている者が多い。
- 6) 性行動に関する意識には性差がみられ、男子学生の方がエイズに感染する可能性が高い。また大学生の性行動の意識から、性病に罹らないような、より安全な性交についての教育が必要である。

エイズの知識については、総じてあまりあるとはいえない。とくに感染経路についての誤った知識も多く、この点が今後の教育内容として検討しなければならない課題となる。また高校までのエイズ教育の効果は低いので、性行動の現状も含めると、大学を含めた学校で、早急にエイズに関する知識の伝達やセーフセックスの情報を教える必要があるといえる。またエイズ患者に対する誤った偏見も多く、エイズの知識に関しては、正しく、学校の教育の中で実施することが必要であるといえる。さらに最近、薬物使用の低年齢化が指摘されているが、大学生での薬物使用は、多くはないが存在するので、薬物使用の際の身体への影響やエイズとの関連についても早急に手を打つ必要がある。

注

- (1) 厚生省・財エイズ予防財団：エイズ読本，1996
- (2) 東京都衛生局：もっと話そうよ，エイズのこと，1994
- (3) 竹井操：エイズに関する授業（教科保健）の展開，学校保健研究，29，577-581，1987
- (4) Charles F. Turner etc. AIDS-Sexual Behavior And Intravenous Drug Use, National Academy Press, 1989
- (5) 根岸昌功編：エイズ教育テキスト，学研，1993

大学生のエイズに関する知識と意識の実態

- (6) Alison T. Lavin etc.: School Health Services in the Age of AIDS, Journal of School Health, 64, 1, 27-31, 1994
- (7) 岡田耕輔, 他: 看護学生の持つ HIV/AIDS に関する知識と意識・態度との関連, 日本公衆衛生誌, 41, 6, 538-547, 1994
- (8) 渡部基: エイズに関する青少年の知識・態度・行動, 学校保健研究, 36, 37-45, 1994
- (9) 薩田清明: エイズに関する意識および知識について, 学校保健研究, 36, 381-389, 1994
- (10) 今中正美, 他: 大学生のエイズに関する意識及び知識調査について (第1報), 学校保健研究, 37, 53-59, 1995
- (11) 岡本幹三, 他: 質問票調査によるアジア諸国における HIV/AIDS 流行状況, 日本公衆衛生誌, 43, 8, 644-650, 1996
- (12) Division of Adolescent and School Health, CDC: School-Based HIV-Prevention Education-United States, 1994, Journal of School Health, 67, 3, 103-105, 1997

資 料

この調査は、エイズに対する意識などをおたずねするものです。回答は無記名ですべて統計的に処理いたしますので、個人に迷惑がかかることは一切ありません。ありのままを回答下さい。回答はすべて回答用紙に記入して下さい。記入後は封筒に入れて、回収箱に入れて下さい（該当する番号を回答用紙に記入して下さい。とくに指定のない限りは回答は1つです）

問1: 1) 男 2) 女

問2: 学年 1) 1年 2) 2年 3) 3年 4) 4年

問3: エイズについて関心はありますか

- 1) 非常にある 2) 少しある 3) あまりない 4) ほとんどない

問4: エイズという病気は

- 1) とても恐ろしい病気だと思う 2) 何となく恐ろしい病気である 3) 何も感じない

問5: エイズの知識はどこから得ていますか、該当するものすべて選んで下さい。

- 1) テレビ・ラジオ 2) 週刊誌などの雑誌 3) 単行本 4) 学校の先生 5) 新聞
- 6) 病院・保健所やそのポスター 7) 行政の広報 8) 友人・知人 9) その他
- 10) とくに得ていない

問6: 中学や高校時代にエイズに関する教育を受けましたか

- 1) 中学でのみ受けた 2) 高校でのみ受けた 3) 中学・高校の両方で受けた
- 4) 受けていない 5) その他

問7: 大学・短大でエイズに関する教育を受けましたか 1) 受けた 2) 受けない 3) 覚えていない

問8: エイズに関する教育は誰から受けましたか、該当するものすべて選んで下さい。

- 1) 担任の先生 2) 保健の教科の先生 3) 保健室の先生 (養護教諭) 4) 保健以外の教科で
- 5) 外部の専門の先生 6) 受けていない 7) その他

問9: どのような教育形態でしたか

- 1) 先生の話のみ 2) 先生の話と本 3) 先生の話とビデオ・スライド
- 4) 先生の話と本とビデオ・スライド 5) その他 6) 受けたことがない

問10: エイズ教育を受けた感想

- 1) エイズがそれほど恐ろしくなくなった 2) 前よりエイズが恐くなった
- 3) エイズに対して関心が高まった 4) 性に対する知識を得た 5) 不潔な感じがした
- 6) その他 7) 教育を受けたことがない

問11: 将来エイズウイルスにかかる可能性はありますか

- 1) 絶対にかからないと思う 2) たぶんかからないと思う
- 3) 状況によってかかるかもしれない 4) やがてかかってしまうだろう

大学生のエイズに関する知識と意識の実態

問12：エイズについての血液検査は受けますか

- 1) ぜひ受けたい
- 2) どちらでもよい
- 3) あまり受けたいとは思わない
- 4) 絶対に受けたくない
- 5) すでに受けたことがある

問13：問12で3・4（受けない）と答えた人へ、受けない（受けたくない）理由は？

- 1) 万一かかっていると診断されたいやだから
- 2) かかるようなことはしていないから必要ない
- 3) その他

問14：問12の結果、かかっていると言われたらどうしますか

- 1) 特に何とも思わない
- 2) とても不安な気持ちになる
- 3) しかたないとあきらめる
- 4) 死にたい気持ちになる

問15：問14の結果を誰に知らせますか

- 1) 家族にのみ
- 2) 親しい友人にのみ
- 3) 家族・友人の両方
- 4) 誰にも知らせない
- 5) その他

問16：問14の結果、どういう態度をとりますか

- 1) 今までどおり他人に接する
- 2) なるべく他人に接しない
- 3) すぐ入院し治療を受けたい
- 4) 経過をみてから治療を受ける
- 5) その他

問17：家族や友人に感染者がいたらどうしますか

- 1) 今までと同様に接する
- 2) なるべくその人に接しない
- 3) すぐ入院し治療を受けさせる
- 4) 経過をみて治療を受けさせる
- 5) その他

問18：予防ワクチンができたなら

- 1) ぜひ接種を希望する
- 2) 適当な時期に接種しておきたい
- 3) 自分に関係ないので受けない
- 4) その他

問19：エイズワクチンができた時受けるべき人は誰だと思いますか

- 1) 感染者が周囲にいる人たち
- 2) 国民全員が受けるべき
- 3) 風俗営業に関わっている人たち
- 4) 希望者だけ受ければよい
- 5) 医療に関わっている人たち
- 6) 同性愛者、薬物中毒者たち
- 7) その他

問20：今後もエイズ患者は増えると思いますか

- 1) 急激に増えると思う
- 2) 少しは増えると思う
- 3) 増えるとは思わない
- 4) よくわからない

問21：エイズ感染者のプライバシーは

- 1) 守られると思う
- 2) 守られることはむづかしいと思う
- 3) 守られずに必ず漏れる
- 4) わからない

問22：エイズに関してもっとも関心のあることは何ですか

- 1) エイズの治療法について
- 2) エイズ予防の日常の注意
- 3) エイズについての正確な情報
- 4) エイズの研究の進みぐあい
- 5) その他

問23：エイズの報道について

- 1) 積極的に報道すべきである
- 2) 現状程度の報道でよい
- 3) 部分的に誇張されすぎている

問24：あなたは性行動の前提条件として何をもっとも重要視しますか

- 1) 結婚
- 2) 婚約
- 3) 愛情
- 4) その時のムード
- 5) その他

問25：あなたが感染者で妊娠した（させた）とき、その子供をどうしますか

- 1) 産む（産ませる）
- 2) 産まない（産ませない）
- 3) その時でないとわからない

問26：エイズに関する教育を受けたいですか

- 1) 是非受けたい
- 2) 機会があれば受けたい
- 3) 受けなくていい
- 4) その他

問27：大学生は異性との交際において、どの程度までを限度と考えていますか

- 1) キスまで
- 2) ライトベッティングまで
- 3) ヘビーベッティングまで
- 4) 性交まで
- 5) その他

問28：エイズウイルスに感染したら必ずエイズを発症すると思いますか

大学生のエイズに関する知識と意識の実態

- 1) 必ず発症する 2) 必ずしも発症するとはいえない 3) よくわからない

◎問29から問49は、正しいと思えば(1)、間違いだと思えば(2)、わからない場合は(3)と記入して下さい

問29: エイズは「ヒト免疫不全ウイルス」の頭文字をとって付けたものである

問30: エイズは遺伝する病気のひとつである

問31: エイズは指定伝染病のひとつである

問32: 血液製剤を使用してエイズウイルスに感染した血友病の人もある

問33: エイズウイルスに感染したひとは5年以内に3割以上が発病する

問34: 妊婦がエイズウイルスに感染するとお腹の赤ちゃんも5割以上感染する

問35: コンドームを使うことでエイズウイルスに感染する危険性は低くなる

問36: エイズウイルスに感染してから、発病するまでの間(無症候性キャリア)は、他人に感染しない

問37: エイズは男性→女性より、女性→男性の方が感染しやすい

問38: エイズウイルスの感染者はいろいろな感染症にかかりやすい

問39: エイズウイルスに感染した人と軽いキスをするだけでエイズに感染する

問40: エイズの患者、感染者と風呂やトイレを共有するとエイズに感染することがある

問41: 避妊用ピルを使えばエイズに感染する危険が少なくなる

問42: エイズウイルスは咳やくしゃみでも感染することがある

問43: 出血しやすい肛門性交は陰性交よりも感染しやすい

問44: エイズ感染者を刺した蚊にさされたら感染する

問45: エイズウイルスの感染者の注射針からも感染することがある

問46: 現在の日本では献血の採血時や輸血でエイズウイルスに感染することはない

問47: エイズの病原体はHIVと呼ばれるウイルスである

問48: エイズに感染すると、結局死んでしまう

問49: 感染者と性行為をして一週間たって検査をすれば、感染したかどうかわかる

問50: あなたのまわりにエイズの感染者はいると思いますか 1) いると思う 2) いないと思う

問51: あなたは喫煙の習慣はありますか 1) 喫煙している 2) 以前吸っていた 3) 非喫煙

問52: あなたは性交の経験がありますか 1) ある 2) ない 3) この質問には答えられない
4) その他

問53: あなたは性交時にコンドームを使用していますか

- 1) 必ず最初から使用する 2) 射精時に使用する 3) 時々使用する 4) 使用しない
5) この質問には答えられない 6) この質問は私にはあてはまらない 7) その他

問54: 不特定多数の人と性交渉を持っていますか

- 1) はい 2) いいえ 3) この質問には答えられない

問55: あなたは薬物を使用したことがありますか 1) ある⇒『具体的な種類 』 2) ない

問56: あなたのまわりで薬物を使用している人はいますか

- 1) いる⇒『具体的な種類 』 2) いない

問57: あなたは風俗産業を利用したことがありますか 1) ある⇒『具体的な種類 』 2) ない